



有田誠(ありたまこと) 京丹波町在住の映画愛好家。写真は、下関市赤間神社の奥に生きている大連神社。扁額の揮毫は近衛文麿。 筆者撮影

山下惣一さん一周忌

佐賀県唐津在住の農民作家(本人はこの呼称を好まず、百姓で通っていた)山下惣一さんが亡くなった一年が経った。あくまでも農家として、みかんや米を育てながら著書五十七冊。タイ、韓国、ブラジル、ロシアなどの外国の現場ルポを書いたり、国内外で共同のグループ

を作ったりした。文章は平明で深い論理性をもち、分析鋭く、ユーモアにあふれ読みやすい。一度、福岡で自然農の川口由一さんとこの催しの打ち上げで山下さんの隣に座ったことがあった。途切れることなく酒をのまされた。こういう酒のみ方も、田舎の百姓そのものであった。



『男はつらいよ』と同時進行のニッポンの物語として、一家に一冊置きたいすばらしい本です。さて、前回のつづき。

三船敏郎(一九二〇〜一九七七)



③⑧『知床慕情』(一九八七)で淡路恵子に惚れる獣医。中国山東省青島の生まれ。四歳のとき大連に移る。大連駅近くで写真屋を営む父が病氣のため、家業を手伝う。十五年前に私が大連に行ったときには、その写真店が入っていた建物はまだあった。



六年間、軍隊にとられ、熊本で敗戦を迎えたとき、「さあみやがれ」と思っ

たと言う。両親も故郷もなく、軍隊仲間が東宝の撮影部にいたので、カメラマンの履歴書を出す。何かの違いで、第一期ニューフェイスの面接に呼び出される。態度のでかさに響壁を買ったが、補欠で採用されてしまう。

②『翔んでる寅次郎』(一九七九)で田園調布に住む桃井かおりの「上流家庭」の母親役。

寅次郎は、川向うは千葉県、京成沿線の育ちだから、田園調布と聞いて「田園地帯か。父ちゃん、百姓か」と言う。東急沿線のこととは知らないのである。小暮は下関の生まれ。父は関釜連絡船の取締役だった。松竹ですてに三年のキャリアがあったが、一九四一年、二十歳上のいとこ和田日出吉と結婚する。

常務理事となり、敗戦の翌年九月に二人で帰国した。一九五七年の納税額が二四六九万円。映画出演のほかジュジュ化粧品、三洋電機の二十年以上のCF出演、孤児のためのボランティア活動、中国人留学生を自宅に寄宿させるなど、戦後の活躍は多岐にわたる。激務の連続で、本人が病気のデパートと言っていたぐらいで、一九九〇年、心不全で死亡。



③⑩『花も嵐も寅次郎』(一九八二)の大阪東湯平温泉

内田朝雄(一九二〇〜一九六六)

の旅館主人。

東京の動物園でチンパンジーの飼育係をやっている沢田研二が、亡き母の遺骨を持ってやって来る。母は以前その旅館で仲井をやっていたのだ。情のある内田は手厚く供養をしてやる。東映やくざ映画の極悪組長が、実にやさしい役をやる。

内田朝雄は朝鮮平壤の生まれ。平壤第一中学卒業後、満州炭鉱傘下の東満和竜炭鉱に入社した。

和電は、詩人尹東柱の生地、龍井の隣である。同志社に留学していた尹は、独立運動の容疑で下鴨警察署に逮捕され、福岡刑務所で敗戦の年、獄死した。

内田は一九四一年に応召され、久留米や北満、広島などに駐屯、敗戦は

仁川で迎え、翌月復員した。一年後、北海道で開墾事業に従事。二年後、満蒙開拓義勇団の元団員たちと長野県に入植する。地元との意見対立で同地を引

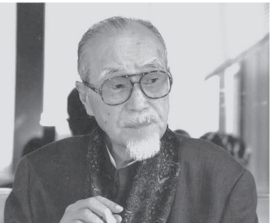
き払い、大阪の宇部興産に入社、演劇活動に専念する。一九五八年、「虚業世界で実力のためそう」と芸能界入りした。

内田は宮沢賢治の研究家としても知られ、農文協出版から『私の宮沢賢治』(人間選書96 一九八二)、『私の宮沢賢治』(同7 一九



尹東柱(1917~1945)

森繁久彌(一九一三〜二〇〇九)



⑥『純情編』(一九七二)

五島列島に住む宮本信子の父親役でワンシーンのみという貴重な出演。満州で電信電話(株)の新京放送局に勤務。敗戦翌年まで満州に七年暮らす。この連載十回分ほどは逸話があるが、省略。